

浅野中学校

算数

2023年度は、各大問とも(1)・(2)・(3)と順に難しくなっていたので、(1)を確実に正解するとともに、(2)や(3)のなかで自力で解けるものを見つけ、どれだけ正解できたかが差となっていたように感じられました。また、大問1の小問や、大問2～大問3前半のていねいな誘導をつけてある部分の小問は、正答率も高く、ミスなく得点してほしかったところです。大問5の(2)最も小さくなる条件を間違わずに、面積を計算する問題で大きく差が開きました。大問5の(3)は、問題の最後に<下書き用>のスペースもあり、単純な計算でなく、図を描きながら考えをまとめていく作業を必要としました。考えを書いて残し、それを見直し回答するというプロセスが必要となります。基本的な計算力や考え方を身につけ、問題の意味をきちんと理解し、解答できるように日々の努力をしてください。

国語

2023年度の1の漢字問題では、一画ずつていねいに書けなかったことにより、誤った字形になっている解答も散見されました。ふだんの漢字学習のときから、一画ずつていねいに書くことを徹底してください。読解問題では、「答えが何か」ということばかりに関心を向けるのではなく、文章中のどの部分をもとに考えればいいのか、その部分をどうやって見つければいいのか、その部分をもとにどう考えれば答えにたどり着けるのかなど、考え方や根拠を大切に勉強してください。問題集や過去問題を解くだけでなく、ふだんからさまざまな文章を読んだり、語彙を増やしたり、読んだ文章やことばについて考えたりすることが、入試問題での得点につながります。読書などを通じてさまざまな文章に触れ、読解力の向上をめざしましょう。毎日の努力の積み重ねが大切です。

理科

2023年度に限らず、用語は漢字で正確に覚えてください。教科書にない語句が参考書などに出ていたら、覚えるようにしましょう。計算問題が毎年出題されるので、計算力はしっかりとつけてください。表や図を読み取る問題が出題されるので、問題文をよく読んで、きちんと理解し、正確に表や図を読み取る練習をしておきましょう。人生でいちばん大切なことはけっしてあきらめない気持ちを持つことです。自分に負けないでください。

社会

教科書の基本事項や最新の時事問題など、社会を学ぶうえで基本的な内容はしっかりと身につけてほしいと思います。一つのことばの丸覚えだけではなく、その背景や意味もしっかり理解してください。そしてそれを説明できるようにしてください。また社会は、今の社会を見る目、考える力を養う教科です。現在世界で起こっていることを、学んだ知識と結びつけて考えてみてください。そしてそれをことばにしてみてください。

鎌倉学園中学校

算数

大問は 8 題で、標準的な問題が中心です。簡単な問題も難しい問題も、配点は同じ 4 点なので、簡単なものを正確に解くことが大切です。総合問題（大問④～⑧）は、(1) が基本問題で、(2) は (3) を解くためのヒントや注意になっている場合があります。出題傾向は大きくは変わらず、難度もほぼ昨年同様となる予定なので、過去の問題をよく演習してください。ただし、「算数選抜」については、すべてが記述式の問題です。考え方を図や途中式で記述してください。

国語

大問は 6 題で、①では教育漢字配当内の漢字を、書き取りのみ 5 問出題します。②・③ではことわざや慣用表現、文法などの知識や運用について幅広く問います。なお、基本的なレベルの問題が中心になります。④・⑤は長文読解で、④は物語文、⑤は説明文です。④・⑤とも 3500～4000 字程度の文章を出題します。設問は、記号選択式・抜き出し式・空欄補充式が中心です。また、40～60 字程度の記述問題があります。傍線部の内容について説明する、理由を記述する問題が多いです。⑥は図表や対話形式の文章、新聞記事などを素材とした問題を出します。資料をていねいに読むことで正解のヒントをつかめます。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題し、原則として 1 問 2 点（完答、1 点あるいは 4 点配点もあり）です。選択問題と計算問題が中心で、用語記入もあります。実験や資料からの考察問題は時間配分に注意してください。物理はものの見え方などについて出題します。化学は水溶液の性質、気体の性質、ものの燃え方などを勉強しておいてください。生物は生物のからだをつくるものなどについて出題しています。地学では流れる水のはたらき、天体、気温と湿度の変化などから出題しています。

社会

大問 2 題構成で、大問ごとに一つのテーマに沿って出題され、地理・歴史・公民の各分野の小問が含まれています。基本的な用語は漢字で書けるように練習しておきましょう。簡単な論述問題もあります。資料のなかに根拠を見つけ、説明できるようにしておくといいです。地理は、日本の自然・産業、各地方の特徴が中心です。歴史は、古代から近現代まで、まんべんなく整理しておくといいでしょう。年表を自分で作成してみるなどして、各時代の特徴をつかむことが大切です。公民では、近年起こった政治・社会問題も出題することがあります。日ごろから「現在、日本の政治や社会で何が問題になっているのか」と考えながら、ニュースや新聞に接するとよいといいでしょう。地理・歴史・公民ともに、時事問題に関心を持ちながら、基本事項を学習しておけば得点源になります。

サレジオ学院中学校

算数

基本的な知識、計算力、思考力を総合的に見ます。分野の偏りがないように、各分野からまんべんなく出題するように心がけています。大問は 5 題で、計算問題、図形、特殊算などを含みます。途中の過程や理由を書く問題もあるので、図や式やことばを用いて、考え方がわかるように解答してください。

国語

出題は、漢字の読み（3 問）書き（7 問）、説明文と物語文の読解（それぞれ 8 問程度）です。日ごろからことばに関心を持って勉強することが大切です。説明文では、話の展開やキーワード、筆者の意見を押さえながら読んでいるか、物語文では、登場人物の行動や気持ち、場面の展開などを押さえながら読んでいるか、読解の基本となる事柄を中心に出题します。それぞれに記述問題がありますが、ただらだと文中のことばをつなげるのではなく、解答の根拠となることばを加えて的確に説明することが求められます。誤字脱字は減点の対象です。

理科

知識の定着度、計算力、図表の分析力などを幅広く問います。時間内に標準的な問題をきちんと解く力を求めています。大問は 4 題で、物理・化学・生物・地学の 4 分野から、ほぼ均等に出題します。身の回りの自然現象についての説明を読んで考える問題や、実験のグラフや表を読み取って規則性を見つけ、計算する問題などもあります。記号・語句・数値・記述などは指示された形式で答えてください。計算結果については、単位も含めて解答させる場合があります。

社会

基本的な問題を中心に、基礎力と組み合わせた発展問題、興味・関心を問う実力問題を出題します。時事的な話題を含む問題、統計や地図などの資料を読み取って考える問題もあります。2019 年度からは、地理・歴史・公民の 3 分野を大問 1 題に統合しました。配点は各分野ともほぼ均等で、75 点満点であることに変更はありません。学校で学習することだけでなく、生活の場で得られる知識に関して出題することもあります。地名・人名・用語など漢字指定の問題は、漢字の間違いや、かな文字での解答は不正解となります。

逗子開成中学校

算数

四則演算の正確さ、計算法則を用いて工夫して計算できるか、各分野の基本的事項が身についているか、その基本的事項を組み合わせた少し複雑な問題に対応できるような思考力・読解力を習得しているか、などを問います。なお、ことばや数式を用いて、論理的に自分の考えを表現する問題も必ず出題しています。そのような記述問題には慣れておいてください。

国語

漢字の読み書きや語句の意味などの語彙力、文章を論理的に把握する読解力、読み取った内容についてさまざまな観点から考える思考力、的確に説明する表現力などを問います。記述問題では、いかに部分点を取るかが重要です。文章から解答すべき要素を見つけて、記述するようにしましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から偏りがないように出題しています。各分野の基礎力を十分に養ってください。また、環境問題や理科に関する時事問題を出す場合もあります。日ごろから科学に関心を持ち、ニュースや新聞などを通じて、現代社会で起きている科学的事項に触れ、基本的内容に関心を持ってもらいたいと思います。大問の前半部分の問いは、ほとんど基礎事項を問う内容です。ここでしっかり得点をして、発展的内容の問いをできるだけ多く解くことが大切です。文章で答える記述問題では、キーワードを落とさぬよう注意してください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から偏りなく、基本問題を中心に出题します。文章や統計データ（グラフ・表）を読み取る力、ある事象について知識を複合的に用いて考える力、重要語句を正確に書く力、筋道を立てて説明する力がどれくらいあるかを測れるよう作問しています。着実に各分野の基礎・基本を学習していくことが大切です。また、丸暗記ではなく、覚える語句にどのような意味があるのか、どのような事柄と関連しているのかを、日ごろから意識して学習しておいてください。

横浜中学校

算数

①は基本的な計算が10問で、②はさまざまな分野から小問9問を出題します。③は文章題です。途中式や考え方を書く設問では、たとえ答えに至らなくても部分点を与えることがあるので、必ず記入しておいてください。

国語

大問は4題が基本です。読解問題（文学的文章と説明的文章）が2題、漢字と語句（漢字検定5級程度）に関する問題が1題、100字の作文問題が1題です。作文問題では部分点があるので、完全でなくても必ず答えを書くようにしてください。

理科

大問は4題です。物理・化学・生物・地学の4分野からほぼ均等に出題します。複数の分野にまたがる問題（複合問題）を出題することもあります。基礎的知識の確認問題、図や表から答えを導き出す問題、実験・観察結果から考察させる問題、時事問題などです。すべての試験で出題範囲に偏りのないよう配慮しています。

社会

大問数は試験回によって異なります。小学校で学習した地理・歴史・公民の基礎事項がしっかり理解できているかを問います。統計資料や地図、都道府県に関する問題、最近起こった大きな出来事（時事問題）はしっかり確認しておいてください。記号選択問題はありますが、記述問題も必ず出題します。特に、漢字で習った人名などは、漢字で書けるようにしておいてください。